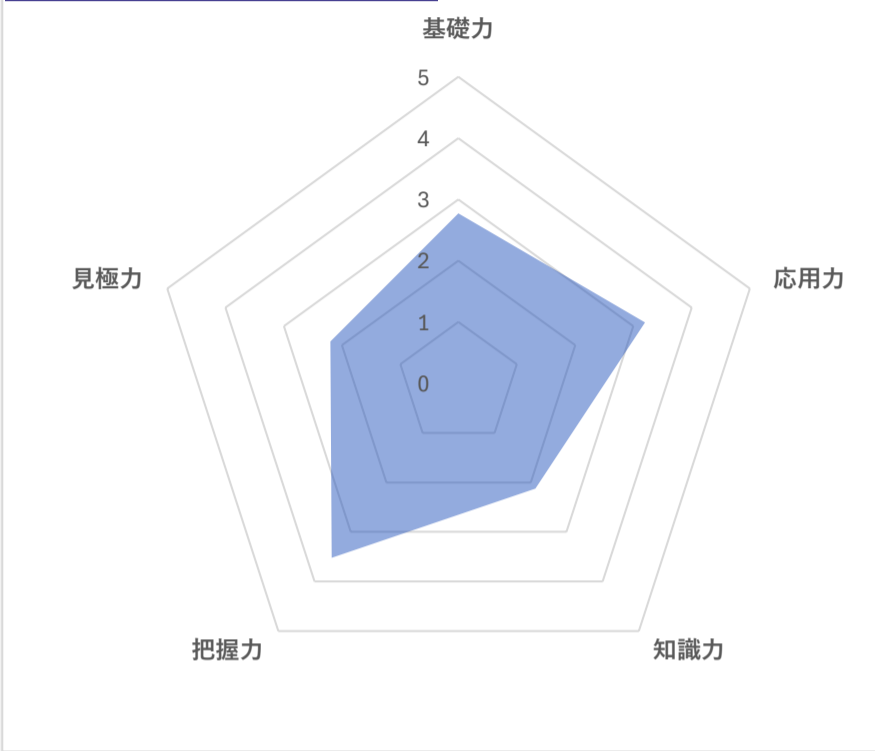


総合分析

試験区分	一期
------	----

制限時間	70分 (理科 2科140分)	大問数	全 4 問
------	-----------------	-----	-------

合格に要する能力 (5段階)

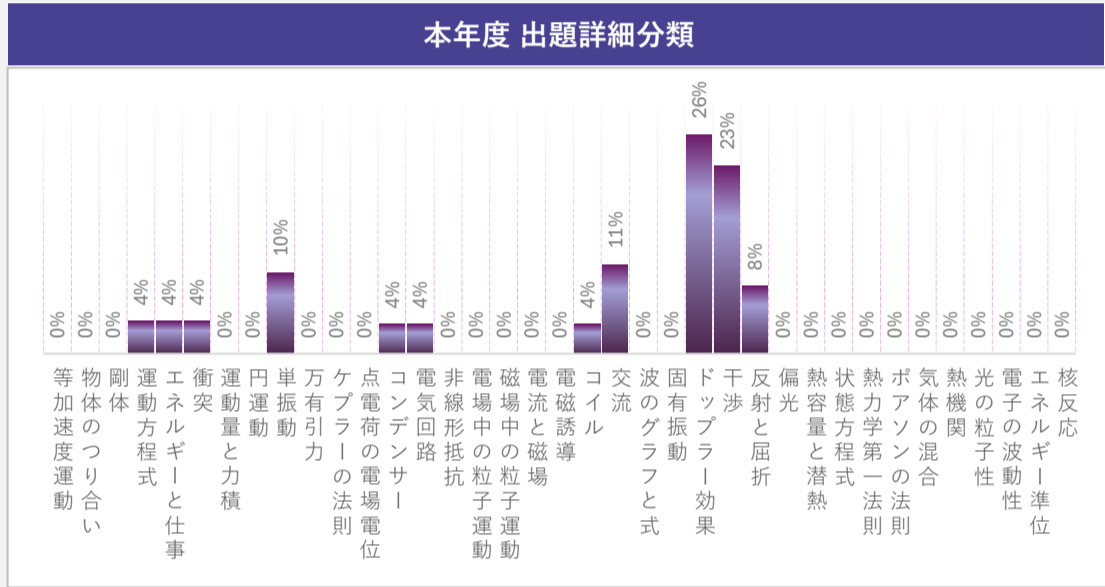


合格に要する能力 (5段階)		
基礎力	2.6	原理についての理解
応用力	3.0	演習経験による慣れ
知識力	1.9	用語を正確に覚えているか
把握力	3.3	臨機応変に状況を把握する力
見極力	2.0	解きやすい問題を選択する力

出題分野	
力学	21%
電磁気学	21%
波動	57%
熱力学	0%
原子物理	0%

本年度 解答形式	
答えのみ記述	71%
論述	29%

本年度出題テーマ一覧	
第 1 問	円運動する音源によるドップラー効果
第 2 問	ばねと小球
第 3 問	RLC直列回路
第 4 問	薄膜干渉



特殊問題の有無	近似計算なし	グラフあり
正誤問題なし	理由記述あり	数値計算あり

特記事項: 特になし

総合評価

難度	2.7	最難を 5 とする問題自体の難度	標準	一次合格に必要な正答率 (予想)	75%
分量	58分	完答に要する時間 (制限時間は70分)	やや少ない	高い正答率を要する	

**入試の特徴と対策**

- ▶ 設問ごとにテーマが一貫しており、目標に向かう流れがある。速やかなテーマの把握が鍵となる。
- ▶ 入試問題としてありふれた題材が多い。単純に演習量で十分に対策できる。
- ▶ 概ね法則の運用に関する応用的な出題である。物理計算への慣れが必要となる。
- ▶ 同時に複数の事柄への理解を要する出題が多い。独力で解法を組み立てる力を要する。

**入試から見る 大学が求める学生像**

第 1 問(5)(6)を除いて大半が典型的な問題で構成されており、標準的な問題集で演習経験だけで解くことができる。問題数に対して試験時間にも余裕があるため、第 1 問(5)(6)を除いて完答も可能である。現象を的確に把握し、正確に計算する能力を重視していると考えられる。